水鏡山鳥奇譚

一

A527
1

假名垣魯文著

水鏡山鳥奇談 全四冊

明治十四年
四月新刻

東京書肆
辻岡文助版

水鏡山鳥奇譚初編撰序

天地一の大戯場あるべし。萬物総小戯場成べし。于粤一の戯場あり。光元を梓元とし。立物を稗史とし。本舞臺三間あるを共合して四冊を規矩とす。

楽屋八則作者の腹の皮彼を殺し是を活しその役割まれば面白ク墓ム振付て色香を配る花道ハ肉攫の木ハ登せど。價ハスット船の高土間ハ一ツね升計り。去ども熟ハ身を入て。緞令魂魄の如く跡ハ引とも。焼酎火の如く立消のする緒ハ。一切引鳴の声色を用ずとハ虫唾かも足を付拍子の譏りへ迫る呼ハ。ふくらんを。御見賀厚き首官様方初編初日の幕明よりハ大切の大團圓まで。下座の太鼓と鳴渡り永當々の御評判の程偏奉願候

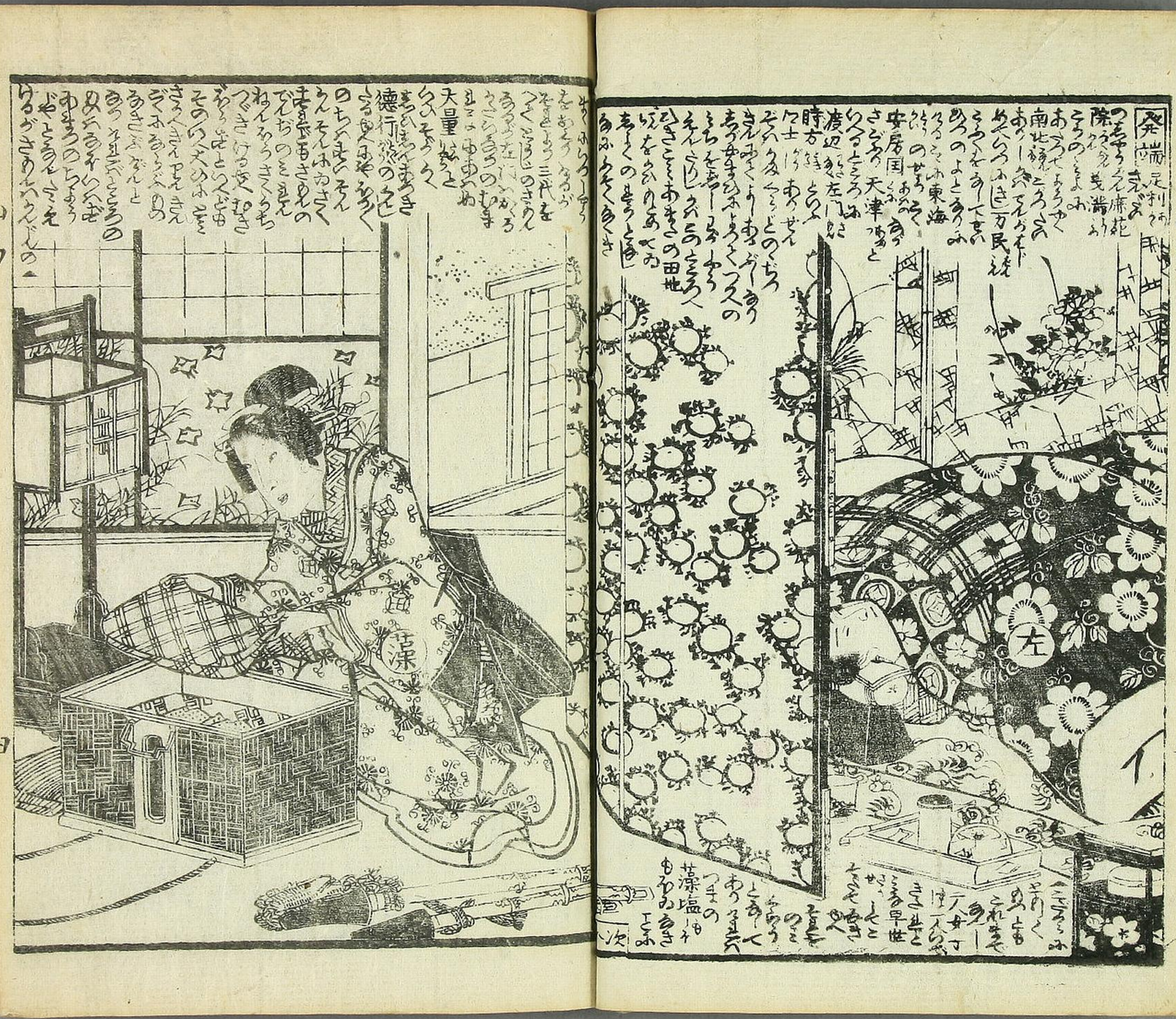
元治二龍集乙丑
孟陬開鏐

鶴亭秀賀戯記

48-7649

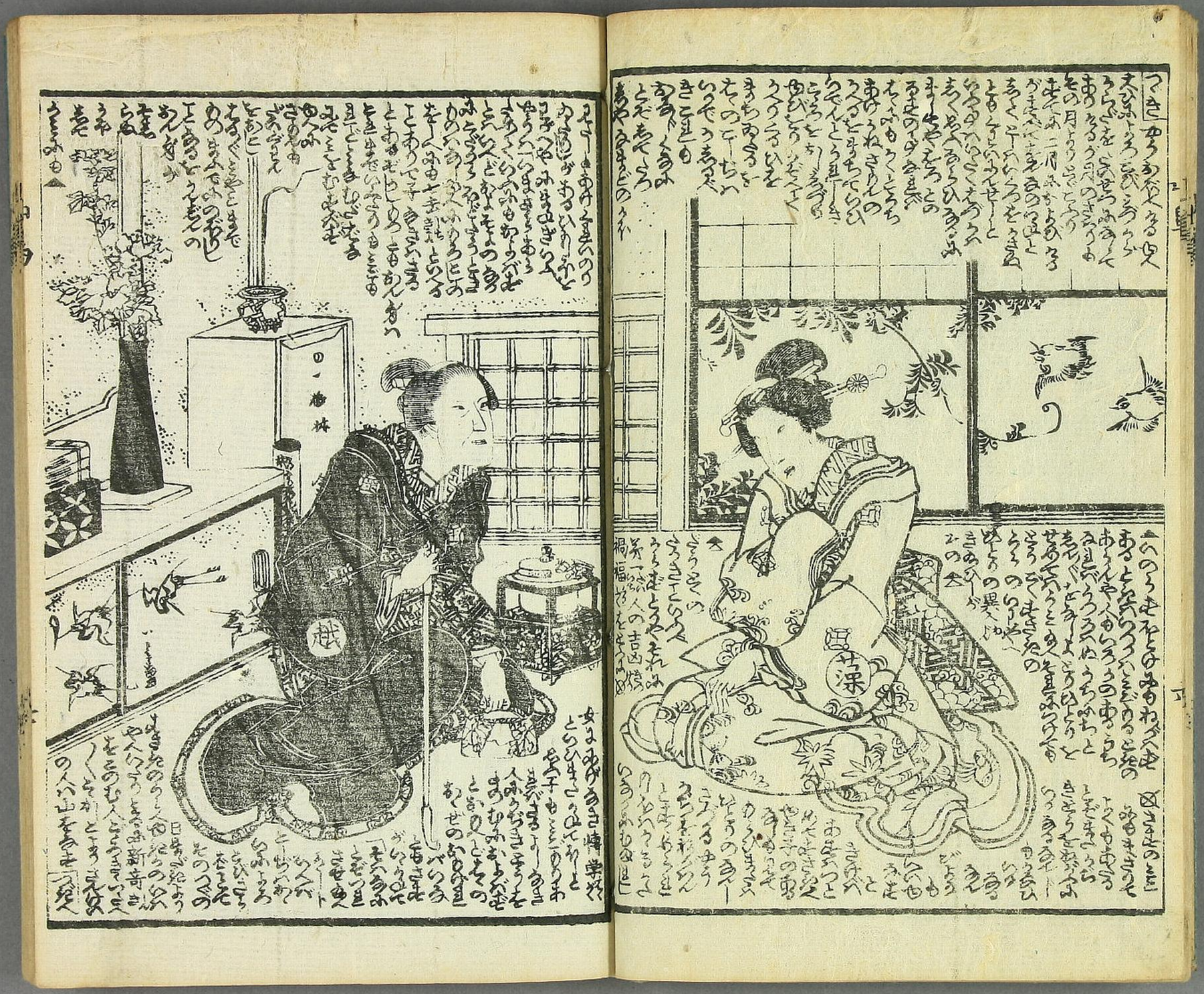
瀧左門
老母越路
妻藻塩左門
異人朱詳

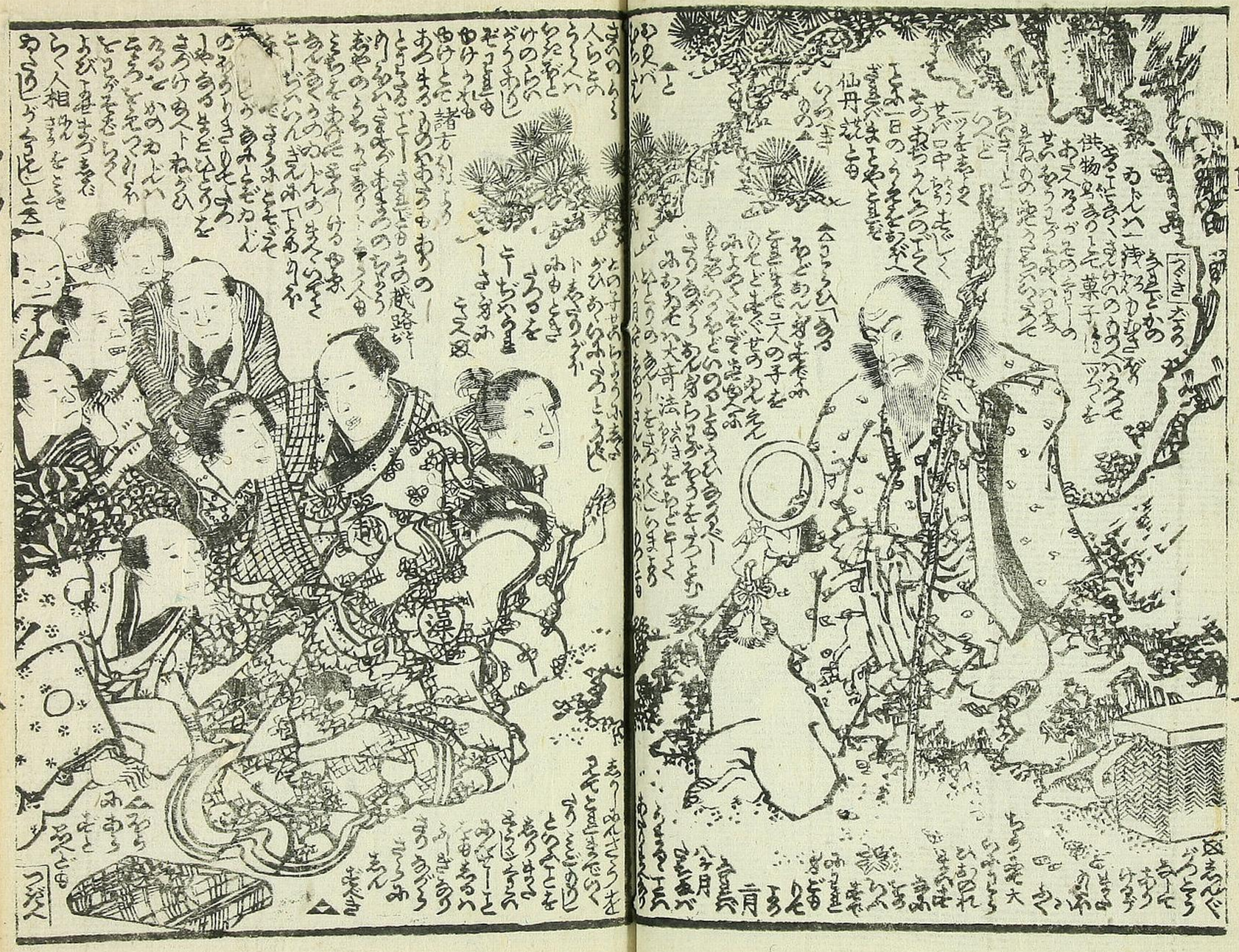
安房国天津の長者
渡邊左門時方
時方の娘小鳥
実は太郎時員
女牛若と渾名
潮竜子
重太郎
白須賀の浪人
鼠塚潜龍

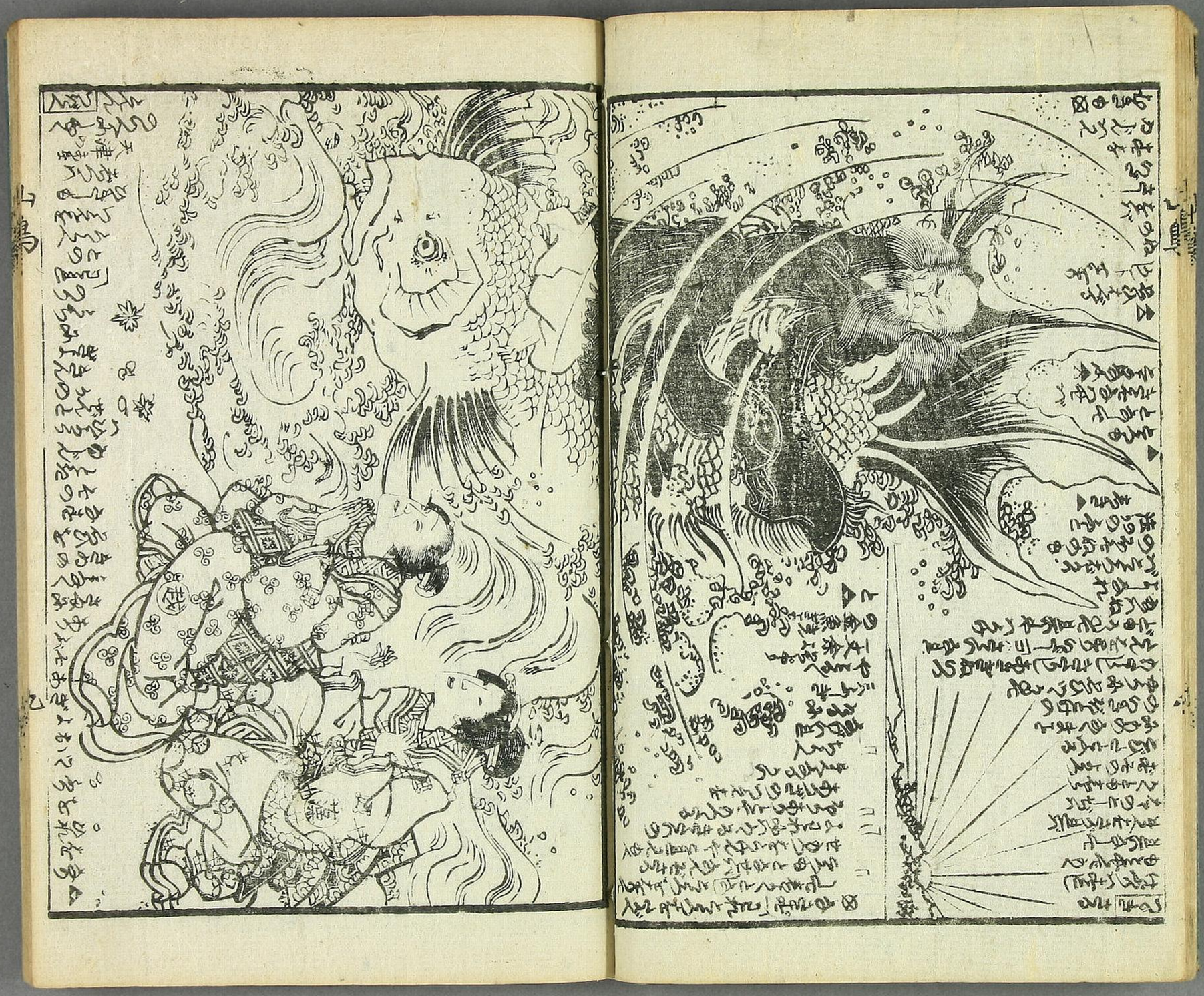

発端
足利の
左
次
梁

つゞき
時
越
藻

左
菓



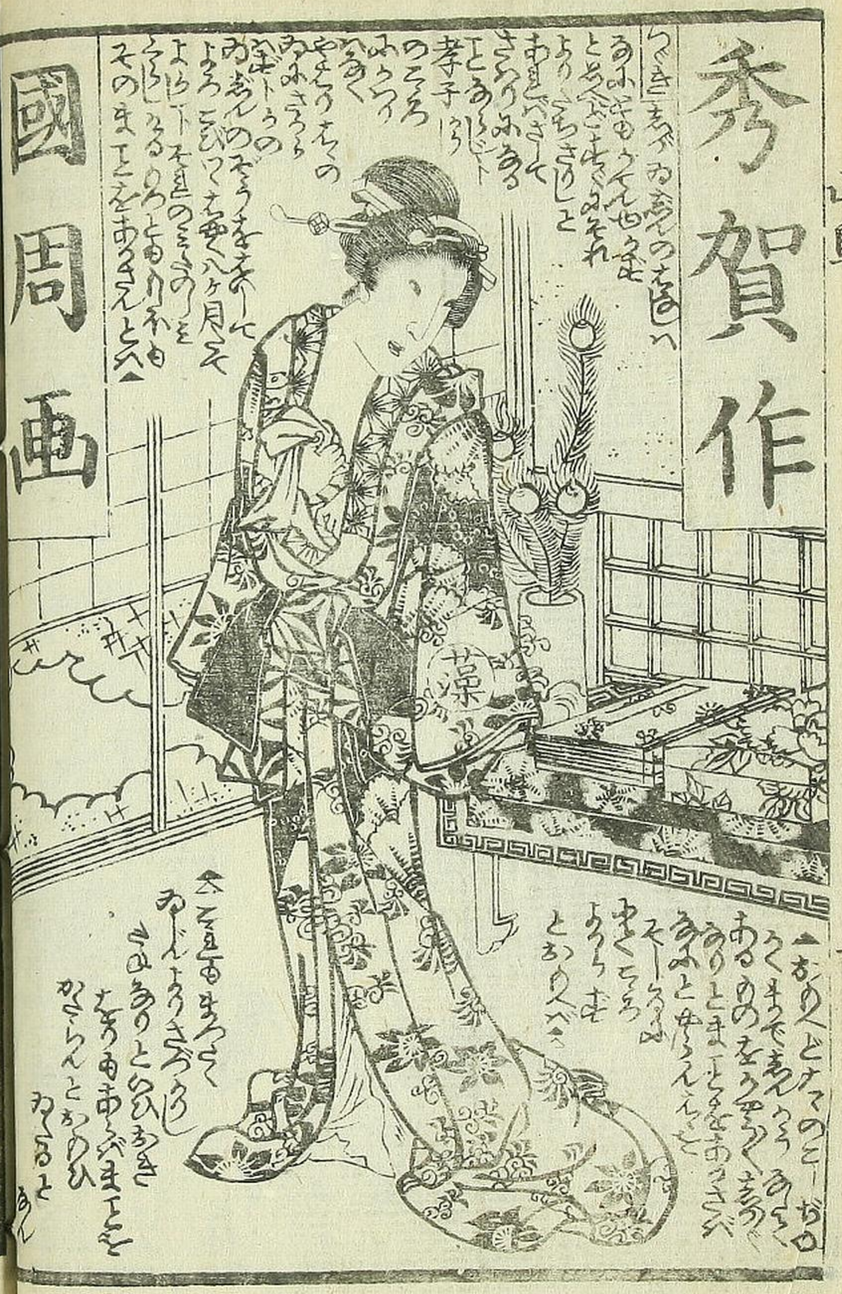


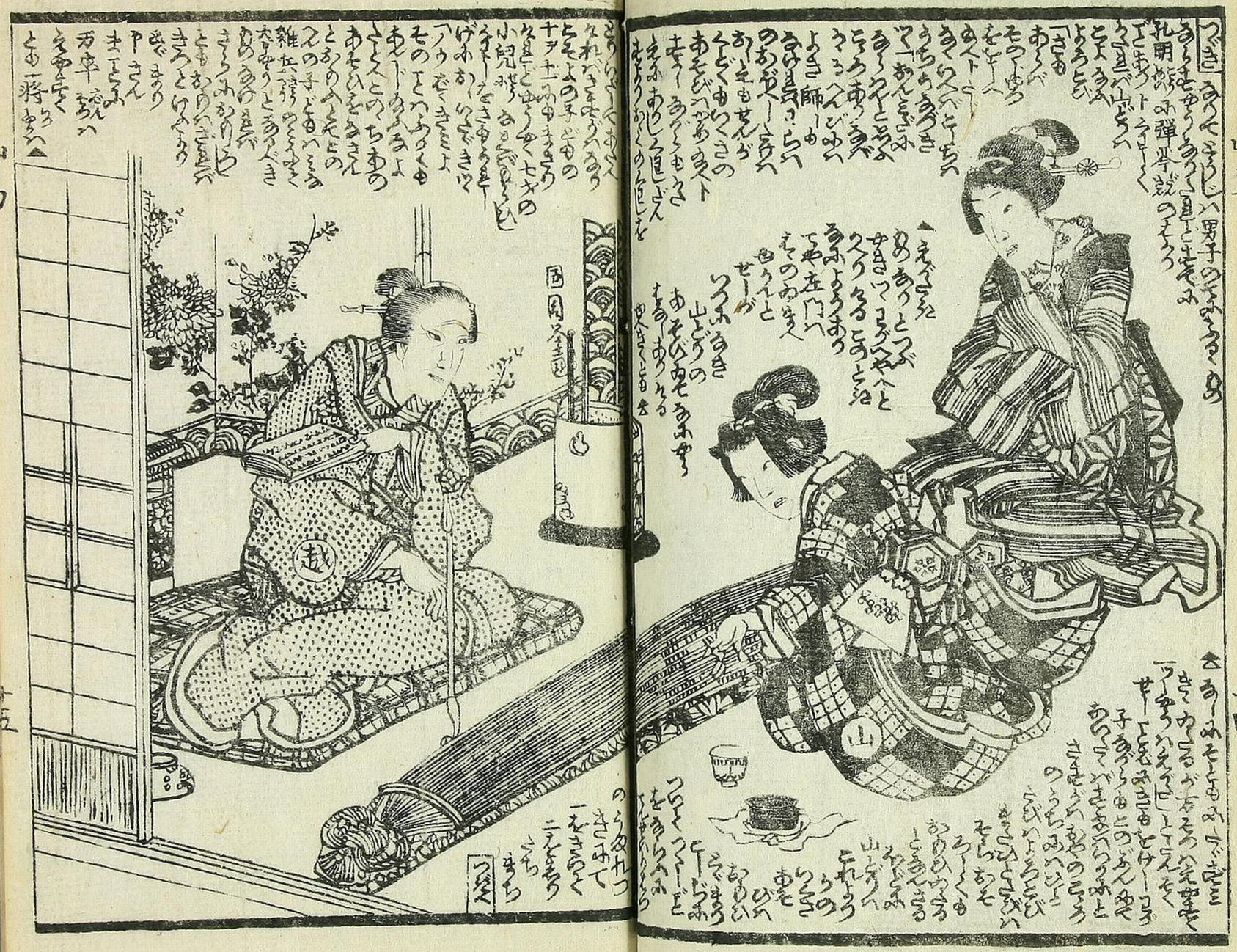


左門
清深

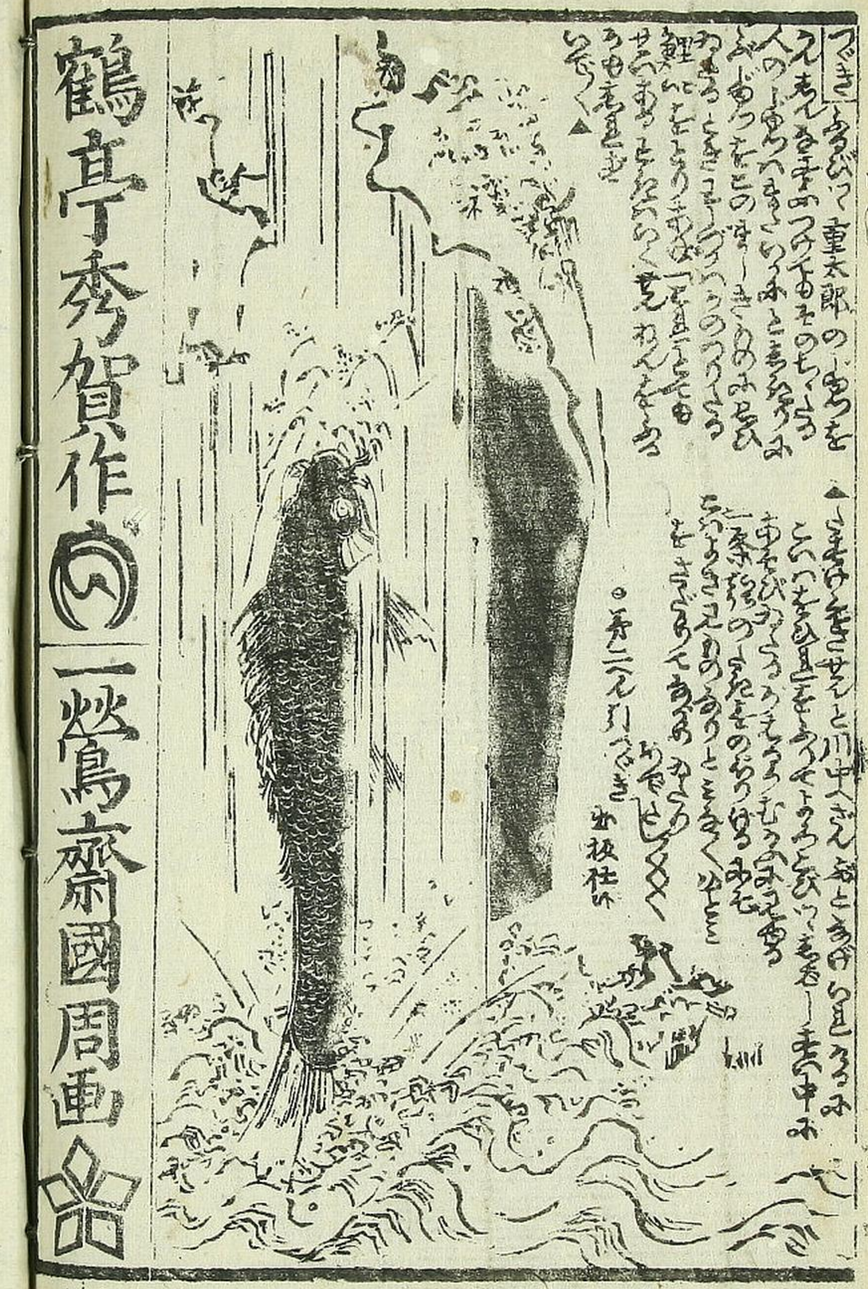
秀賀作

國周画





姓名未詳



鶴亭秀賀作

一燈鳥齋國周画

010190513780